

2016 年度活動報告 CJP 授業：日本文化 A

藤原 由紀子（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業は、レベル4以上の学習者を対象とした選択科目で、日本映画と食文化の講義を理解し、さらに自ら主体的に調べ発表することにより、総合的な日本語力を高め、日本文化についての知識を深めることを目標としている。また、京都フィールドトリップや教室外での課題を設けることで、座学による知識の取得だけでなく、体験を伴ったより深い学びに繋げていくことを重視した。

2. 授業内容

授業全体の構成は、①日本人と四季 ②日本人の生活における宗教 ③特別な日の過ごし方とした。まず、映画「海街 diary」を視聴し、全体への導入とした。この映画を選んだ理由は、物語が夏から翌年夏までの一年間で構成されており、鎌倉を舞台に日本の四季折々の食や風景が美しく描かれていること、また伝統的な日本家屋に住む主人公達の暮らしぶりから、日本の年中行事や季節ごとの暮らし方などを窺い知ることができることなどにある。映画視聴後には、日本の年中行事に関する講義とディスカッションなどを行った。その後、四季と食文化に関する講義の続きとして、和菓子についての講義を行い、フィールドトリップで体験する和菓子作りへと繋げた。また、フィールドトリップの前には、行き先の歴史的背景や参拝の作法などについて、担当を決めて調査発表する機会を設けた。最後に、特別な日の過ごし方として、日本の正月の過ごし方についての講義と正月料理の調査発表を行った上で、異なる文化背景を持つ学習者同士でグループディスカッションを行い、様々な文化と比較して食文化について考える機会とした。

3. 成果と今後の課題

冬期休暇中に課したレポートには、実際に門松や破魔矢を目にした喜びや、旅先で数の子を見て、「何これ？」と言っている他の留学生に対して自分が説明できたことが誇らしかったといったような記述が見られた。本授業を受けることで、わずかではあるが、学習者が日本の伝統行事や生活をより深いレベルで理解、経験することができていると言えるのではないだろうか。今回の授業では、発表の際の調査方法などについては指示しなかったため、インターネットを利用した学習者が多かった。今後は、図書館での調査方法なども紹介し、上級レベルの学習者として、留学中だからこそ手にすることができる豊富な資料を活用して、自ら学びの質を高めていくような指導をしていきたい。